

国立国語研究所学術情報リポジトリ

< 講演 > オラの愛する元気な日本・大好きな日本語

著者	カール ダニエル
図書名	グローバル社会における日本語のコミュニケーション : 日本語を学ぶことはなぜ必要か : 国立国語研究所第6回NINJALフォーラム
ページ	37-43
発行年	2013-06-28
シリーズ	NINJALフォーラムシリーズ ; 4
URL	http://doi.org/10.15084/00000920

オラの愛する元気な日本・大好きな日本語

山形弁研究家・タレント ダニエル・カール

みなさん今日はあーすー。

ご紹介をいただきましたカリフォルニア生まれ、山形育ちのダニエル・カールです。本日は、すごい堅いお話つか、すごく勉強になる、ためになる話ばつかし、今まであわせて二時間あつて、すごく勉強になったとは思いますが、これから三十分はあんまり勉強にならないことを、皆様、ご覚悟をお願いしたいと思います。

でも、やっぱり今国際化時代だからこそ、ちょっとためになる話を考えながらしよーと準備してたんです。

三十年前の日本の現状

今、国際化時代ですよ。よく使われる単語ですけど、ほんとに国際化されていつてんのかなと思う方もたくさんおられると思うんです。ちょっと一昔と比べてみてください。

オラが初めて日本さきたのは三十五年前です。昭和五十二年です。一年間、奈良県の五條市に住んでました。交換留学生として智辯学園という野球でちょっと有名な高校に一年間留学して、そこで初めて日本語を勉強したわけなんです。最初から方言勉強してたんだ、私は。猛烈な奈良弁だったんです、一年目。

とにかく、今から三十五年も前のことなんですけど、日本はまだ国

際化されてなかったねえー。もう、街歩いてるだけで、道路の脇歩いてるだけで、このへんで運転しているお母さんが私を見て、「うわあー、外国人やわー」とかいってて、ほんで僕のことばつか見てんですよ。運転しながらですよ。そして、前の車に軽くバツーンってぶつかったんです。そういう経験があるんですよ。なんと三十五年前に日本の田舎、ただ町歩いているだけで、私、脇見事故を起こす力を持っていたんだ。

そのあと二回目の留学は大学生のころで、最初は大阪の関西外国語大学に四か月、その後、京都の二尊院に二か月ホームステイをしてちょっと勉強していたんです。そこは大会だから外国人けっこういたんですけど、京都の次にすごいところに行きました。佐渡島に流されました。別に悪いことしたわけじゃありませんが、佐渡島の伝統芸能の文弥人形を研究するために渡りました。実際に人形遣いに弟子入りしたんですよ、四か月ばかりは。

佐渡島でのある日の出来事

師匠が八十歳くらいの方で、いろいろ佐渡弁のことも教えていたんだけど、人形のことを習ったわけなんだけど、ある日、突然、先生に用事ができまして、午後一時くらいにでかけなけりゃなくなっ

た。だから、「ダニエル、今日はここまででいいんだ。あとは自由行動で帰ってよい」といわれたとき、ウォーと思ったんです。

久しぶりに自由になりましたね、何して遊ぼうかなとかいろいろ思っ、じゃあ最初は村をちよつと探索すべえと。いろいろ町回ったりしたり、なんというんですか、町の裏っかわのほうにいっぱいあった田んぼ、田園風景を見るのがオラ好きだったんですよ。カリフォルニアでや見えねえ光景だからね。あぜ道を歩きながら、タニシとかいろいろ探したりしていました。オタマジヤクシに足がどれくらい伸びてんだとか、いろいろ探したりしていたんだ。すごーく楽しかったんです。ゆつくり、遊びながら。

ところが、気がつかなかったんですけど、オラの後ろにあった農道に、なんと、バトカーがきました。

お巡りさんが、なかに座ったままで、まずサイレンを鳴らすんですよ。エッ、へんな音だなと思って、後ろをみたら、お巡りさんが車から降りて、こう手招きしているのです。

皆さんご存じだと思いますが、外国の方は三か月以上、日本に住んでいる場合、最寄りの役場に行つて、身元保証書みていなものをつくらなければなんない。今は運転の免許証のような薄っぺらなものなんだけど、一昔前は、学生手帳みたいなちっちゃい本だったんですよ。そのなかに詳しくいろいろな情報も書かねばなんなかった。まず自分の名前、ローマ字、片仮名、家族構造はどうなっているか、本国ではどこで生まれたか、今どこに住んでいるか。それから、日本にきてからどこに住んでるか、どういうビザできてんのか。指紋も十本全部捺印しなきゃなんなかった。本当に細かいこといろいろあって、これつくつてもらった後は、外にでるときは必ず身につけて歩きなさい



ダニエル・カール

米国カリフォルニア州モンロピア市出身。

高校時代、交換留学生として奈良県智辯学園に1年間在日。大学生時代、大阪の関西外国語大学に4か月学び、その後、京都の二尊院に2か月ホームステイ、佐渡島で4か月文弥人形遣いの弟子入りをした。米国で大学卒業後、日本に戻り、文部省英語指導主事助手として山形県に赴任し、3年間英語教育に従事した。その後、上京し、セールスマンを経て、翻訳・通訳会社を設立、25年前からテレビ・ラジオ等の仕事を兼務して現在に至る。

主な出演番組は、「Your Japanese Kitchen」(NHK国際2007年4月～)、「ぶらり途中下車の旅」(NTV)、「生活ほっとモーニング」(NHK総合TV)、「どんど晴れ」(NHK総合TV 朝の連続TV小説2007年4月～9月)ほか。

著書は、『ダニエル・カールの国際交流入門』(ぎょうせい、1994年)、『ダニエル先生ヤマガタ体験記』(集英社、2000年)、『オラが心の日本アメリカ』(NHK出版、2001年)、『使える英語はこう学ぶ』CD付(東京書籍、2001年)、『ジャパングリッシュ DAMEDAS講座—なぜか「英語ツウ」になれちゃう』(東峰書房、2006年)ほか

よと、あっちこっちの役場でいわれたんですよ。「これを身につけていなければ逮捕される可能性がある」と、何遍も注意されました。やっぱり怖かったんですよね。奈良でもつくつたし、大阪でも京都でも、もちろん佐渡島にきてまたつくつたんだけど、ただ、ずうっと持ちっぱなしで、だせといわれたのは今回が初めてだったんです。だせっていっているのが、またお巡りさんだから、ちよつとギクツとききましたね。

「あれっ、僕の外国人登録書ですか。これです」とでしたら、お巡りさんが「ここで待ってください」といって、車に戻って無線でえんえんと誰かと話してんだ。「ふおにゃ、ふおにゅ」とかいって。そして、何遍もオラの証明書についてる写真を見て、オラの顔を見て、写真を見て、オラの顔を見て、ほんとうに本人なのかどうか確かめてんですよ。

警察署にて

しばらくしたら戻ってきて、お巡りさんが「一緒に署にきてください」といってうんです。「なんでオラが警察署にいがねばなんねえんですか」と聞いたたら、「いいから乗ってください。パトカーに」。そんで、後ろのほうに乗って、ドアを締めた。お巡りさんは車を運転しながら、なんと、ライト照らして、走ったんだ。

「エッ、どうなってるんだ。オラ今逮捕された。よくわかんねーな」。後ろのほうでだんだん心配になってんですよ。

警察署について、座り心地の悪い椅子に案内されて、座った。もしたら、そのお巡りさん消えっちゃったんですよ。周りに座ってるのは、からだのゴツイ警部さんばっかしなんでしゅ。だんだん怖くなってきたんだ。オラどうなってるんだーと思って。しばらくしたら、警察署長さんがでてくるんですよ。向かいの椅子に座って、私の登録証を見ていて、

「名前はなんと発音するんだ」

「ダニエル・カールです」

「年はいくつだ」

「十九歳です」

「佐渡島でなにしてるんだ」

「人形習ってるだ、ニンギョー、文弥人形です」

「どこに住んでるんだ」

「若林さんのところで下宿させていただいてるんです」

「結婚しますか」

質問がだんだんへんになってんだけど、いちおう署長さんが聞いてんだから、素直に答えました。これが十分、十五分くらいずっと続いて、質問されっぱなしで全部素直に答えました。

それで、やっと、質問がなくなつたところで、「署長さん、どうして私を警察署に呼んだんですか」。そしたら、「エエッ、いやーあ。この佐渡島では外国人さんがとっても珍しいものでね、ただ会ってみただけですよ」といんですよ。「もう早くいってくださいよ。心配するじゃないですか」とかいいたら、「ゴメンゴメン、ゴメンゴメン」。その後、お茶がでてなごやかにいろいろお話ができましたんですが、お茶、二十杯くらい飲みましたね。

わずか三十五年前までのこと。日本はこういう世界だったんですよ。地方では外国人がすごく珍しかったんですね。

山形県下の中・高等学校で

山形県にいったころはまさにそうだった。文部省英語指導主事助手として、山形県で初めての外国人の先生だったんです。史上初の外国人の先生なんです、山形県では。今人数はふえてんですが、昔は各都道府県に一人か二人くらいしかいねーかったんです。オラが山形県ではたった一人の英語指導主事助手でした。だから、仕事がハードですよ。毎日出張して違う市町村に行って、違う学校で子どもたちに英

しゃべってもいいんです。だいたいの場合は、オッケーなんです。あんまり問題はねえんだ。

外国人にとっての日本語の落とし穴

ただし、日本語という国の言葉、日本語という国語には、いくつかの落とし穴があるんです。外国人にとって非常にわかりにくい特徴がいくつかあるんです。それをこれから取り上げて皆さんにお教えしたいと思っています。

まず最初は、この単語を皆さん思い出してください。主語。主語っていうのは、みなさん、



英語を勉強なさったとき習いますよね。SVOの英語の順番を覚えて、最初のSがサブジェクト、日本語に訳すと主語。「私は、大阪へ、行きます」という文章だったら、主語は、わかりますよね。「私は」。この文章の主人公が主語になるわけですね。この主語は、外国の言葉にとって、たいへん大切なものなんです。英語でもドイツ語でも、ロシア語もだいたいそうだし、主語は、一つ一つの発言の

なかに必ずいれねばならないもんだとされているんです。それがはいってないと、だいたいベケになるっていうルールになってるんです。それがだいたい世界共通的なところなんだ。

けども、日本語という言葉は、この主語を、使わねえ。できるだけ主語を落として皆さんしゃべるんですよ。長い会話してるとき、冒頭ではそれをいうんかしんねーけど、そのあとそれを落としてずうっとしゃべり続けるわけです。だから、途中からそれを聞きにはいった人は、誰の話をしてんだかわからないですよ。それが特徴なんです。この主語がなければ、外国人にはじれったいんだ。誰の話をしてんかと。毎回いわないと、なあーんか、情報が物足りないような気がする。

栗山さんの家での出来事

僕が初めてこれにぶつかったのは、奈良のときだった。住んでいたのが栗山さんというご家庭でした。栗山さんとこに男の子が二人いたんです。僕の弟になるわけなんですけど、上の弟のミキちゃんが、ある日、玄関で、ある発言をしました。玄関ですからご存じのように、「行つてきまーす」という表現でした。この「行つてきまーす」の、なにが問題だ、と思われるかもしれないんだけど、これは外国人にとってはねえー、考えてもみてください。なんで外国人にわかりにくいかわゆたら、行つてきますという表現をそのまま英語に訳してみてください。「go, come」。動詞じゃないじゃないですか、これは。なーんにもついてねーんですよ、情報が。

だからミキちゃんが「行つてきまーす」といったとき、私は思わず聞いてしまいました。「誰が」って。するとミキちゃんが、「ハァー」と

かいうわけなんです。「誰が」と聞かれたら、日本人のほうがとまどうわけ。「誰が」と聞かれて、「あのなあー、ダニエル。誰がっていったら、行つてきますとゆうた人が行くに決まってるだろうが」と。おおー、なるほどなと思っただ。

次に聞いたのが、「どこへ」。それもいつていないんだかね。聞いたら、またミキちゃん、「はあーっ。あのなあー、学生服を着てるやろ。学生服着て、行つてきまーすといったら、学校に行つてくるに決まってるやろうが」と。「ほおー、なるほど。服装をみて決めるもんなんだあー」と。

去ったあと、玄関の脇でちょっと考えこんでいて、よおーわからないなと思つていたとき、お父さんがでかけようとしたんだ。お父さんがそこで、「行つてきまーす」といったから、ちよつと意地悪に、「誰があー」って聞いてみたんだ。お父さんが、「俺が俺が」というから、「どこへ」って聞いたら、「はあー、ほら、ネクタイをしつかりしめてるやろー、背広着てるやろー、これから会社だよ」とかいわれたから、やっぱり服装を見て決めるもんだと思つた。

「よーし、これでわかつた」と思つたら、五分後に今度はお母さんがでかけた。お母さんがそこで、「行つてきまーす」といったから、また意地悪に、「誰があー」って聞いて、お母さんが「わたしや、わたし」と。そのあとお母さんの服装を見て、困つてしまいました



あー。いつもの服を着てるじゃあないですか。これじゃあわからなくなつて思つて、「お母さん、どこに行くんですか」と聞いたら、お母さんが「ほらほら、ぶらさげているものはなんだかわかるかあー。買い物袋やろー。買い物袋をしょつてでかけるときは買い物しに行つてくるに決まってるやろーが。ダニエルさん、あつたりまえやないか」といわれたんですよ。お母さんがあつたりまえやないかとかいうんだけど、外国人にとつて、じえんじえん当たり前じゃないですよ。だって、なにもいつてねえんです。動詞しかいつてねえーわけしゅ。何をいつたかというと、「go, come」。これだけなんだ。情報がなにもついてない。これは強烈な例なんだけど、日本人のみなさんはこういうところけつこう得意なんです。全部いわなくてもわかるべえーつちゅうところが。これだけしゅ。できるだけしゃべらないようにして、相手にその理解をまかせるちゅうところが一つあるんできゅ。

以心伝心はテレパシー、外国人には通じない

以心伝心みたいな言葉がたくさんあるんできゅ。気配りだとか、腹芸、腹探り、察し察すること。ねえつ。顔色をみる。これらを全部英語に翻訳した場合はどうなるかわかる。

テレパシー。これ全部テレパシーなんです。つまり、外国人

の立場からいうと、これ全部超能力になってるわけなんです。日本人のどっか、できが違うんだよな。人の相手の、なんちゅうか、そういうところまで想像できるというのが得意です。みなさん小さいころから練習しているわけなんだから、うまいわけなんです。日本にきて、まだ五年とか十年くらいしかたつてねー人たちには、こういうところはちょっと弱いから、ちょっとだけ、なんというんですか、あわせて、しゃべるときは情報を足してあげてください。「行つてきます」だけじゃなくて、まず最初、「あのな」っていつてくたしやい。注目をひっぱつてから、「私は、これから、学校へ、行つてきます」。「四時ごろ帰りますから、それまで留守番頼むよ」。ここまでしゃべつてくれれば、どんな外国人でも、「がつてんだ」とかいつてくれんだから。こういうところなんですよねー。文法の曖昧なところと、この単語の曖昧なところ。

もつとも誤解されやすい比喻

ほかにも取り上げたい話題が山ほどあるんだけど、オラけつこうおしゃべりだから、もう時間が終わっちゃいましたよね。

簡単におさらいします。氣いつけなければなんないところはいろいろあるんです。比喻的に使われている表現とか、これもまた外国人混乱してんですよ。これが日本語のなかで一番すばらしいところでありながら、一番誤解しやすいものなんです。比喻的に使われている、直訳できねえー表現。たとえば、顔が広い。オラ初めて顔が広いと聞いたとき、ビックラしましたね。なんで人の顔の大きさをいうんですか、失礼じゃねえかって思っていました。

あと、お客さんのこと。「あのお客さんしょっちゅうくるんで

うー、いつもくると尻が重い」とかいうんです。誰が計るんですか、そんなもん。ややこしいことたくさんありますよネー。

みのもんださんにも、このあいだへんなのいわれました。コマーシャルのあいだになんかしやべつていて、「デパートにいつて、ほしいもの見つけた」とかいつて、僕がちよつと、「えっ、どれくらい欲しかったですかあー」とか聞いたら、「やあー、喉から手がでるほど欲しくなりました」といわれて、「ええっー」と。オラ意味がわからなくて、昼飯に何をくつたんだろうかと。こういう表現は、ほんとーにね。

比喻を使うときのお願い

皆さん勘違いしねーでくたしやい。外国人の友だちと話をしているとき、こういうのを使うなつと、オラ絶対にいわないんです。反対です。バンバン、バンバン使ってください。使つても、これは日本語のミソなんです。こりにこつてやつとできてきた日本語の宝石みてーなものなんです。外国人もこういうの毎日一つか二つくらい覚えるのが趣味だといっている人がいるわけなんです。だからバンバン、バンバン使ってください。

ただし、一つだけお願いがあるんです。使つたあとにですよ、必ず、説明も入れてください。説明がねえーと、「ええっー、どうなつてんだあー、この会話」つて思われますので、是非ともこういうところも、氣いつけてくんしやい。

ほかにも山ほどあるわけなんです。今度またね、別の講演、あちこちでやっていますので、どうぞよろしくお願いします。長い時間ご清聴、どうもありがとうございます。